

科目名	アフリカ開発論特講	担当者	モチヅキ 望月 カツヤ 克哉	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>「アフリカ開発」とは、単にアフリカ地域の問題ではなく、グローバル・イシューでもあるという見方が国際社会では支配的でした。そのため、他の国や地域における開発の経験をアフリカ諸国にも適用することで成果を上げようと、国際機関や関係国政府は注力してきました。しかしながら「アフリカ開発」とは、この大陸に暮らす人びとが担うべきものですから、われわれはパートナーあるいはステークホルダーとして、これに関与してゆかねばなりません。本特講では、このような問題意識からスタートして、アフリカ地域における開発課題を文献・資料から理解するとともに、今日的な課題の把握をめざしています。</p>		
到達目標	<p>履修者には、アフリカ地域の開発の現状について正しい認識を獲得してもらうとともに、その背景事情の理解も同時に深めることを第一の目標にしています。</p> <p>その上でアフリカ開発をめぐる国際社会の動向にも目を向け、アフリカ各国政府の開発努力に対する国際的支援の在り方について探ることを第二の目標にします。</p>		
学修方法	<p>まず、アフリカ地域に対する見方を新たにするとともに、履修者自身が暮らす日本社会を考えるのと同じ目線で問題を捉えることをめざし、そこから見えてくる個別・具体的な問題や課題を整理してもらいます。(基本教材1のレポート課題(1)・(2))</p> <p>次に、今日的な開発課題を考察するために、1990年代に入り先進諸国の間で“援助疲れ”が目立ちはじめた中で日本政府が提起し、現在まで継続してきたアフリカ開発会議を題材にしなが、アフリカ開発をめぐる課題の変遷とともに、そこに横たわっている問題点を把握してもらいます。(基本教材2のレポート課題(1)・(2))</p>		
スケジュール	<p>レポート提出期限は、原則として『大学院要覧』にあるとおりです。</p> <p>前期(基本教材1のレポート課題(1)・(2))については9月中旬 後期(基本教材2のレポート課題(1)・(2))については1月中旬</p> <p>必ずしもレポート課題(1)・(2)を同時に提出する必要はありません。むしろ、レポート課題(1)を早めに提出して、添削指導を受けたのち、レポート課題(2)に取り組むことが望ましいと考えています。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	<ul style="list-style-type: none"> 基本教材の読解が的確になされているか。 参考図書や、その他の文献・資料が参照されているか。 論考としての完成度(構成、記述内容)が一定水準にあるか。
	平常評価	30%	<ul style="list-style-type: none"> 添削指導への対応のタイミング。 指摘対応が個別、具体的になされているか。
履修者への要望	<p>アフリカ地域の歴史について正しい認識をもつていただくために、基本教材1に関する参考図書として、手軽な歴史に関する新書とともに現代のアフリカを論じた文献を挙げておきました。基本教材とあわせて読んでもらえれば理解が深まると思います。</p> <p>アフリカ開発をめぐる課題の変遷を理解し、そこに横たわる問題を把握するためには、系統的な資料・情報の収集が不可欠です。基本教材や参考図書を手掛かりに、関連文献・資料を検索するよう努めてください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 峯陽一，武内進一，笹岡雄一編 教材名： 『アフリカから学ぶ』（有斐閣，2010年）ISBN:978-4-64-104986-4 2,300円+税
	アフリカに関心を抱く人びとに学びの契機と材料を提供することを意図して編集された論集で、「歴史の中のアフリカ」、「平和なアフリカのために」、「豊かなアフリカのために」、「アフリカの21世紀—新しい関係をめざして」と題された4部，全15章で構成されているバランスのとれたアフリカ論です。
参考図書	宮本正興，松田素二編 『新書アフリカ史』（講談社，1997年）ISBN:978-4-06-149366-7 1,400円+税 北川勝彦，高橋基樹編著 『現代アフリカ経済論』（ミネルヴァ書房，2014年）ISBN:978-4-623-07172-2 3,500円+税
履修上のポイント	履修者がアフリカ地域の歴史や現状，そして開発課題について正しい認識をもつことを，所期の目標としています。 アフリカ開発の第一義的な担い手がこの大陸に暮らす人びとであり，そこで歴史的に形成されてきた社会集団であることの再認識が最初のポイントとなります。 その認識の上に立って，開発課題である「平和」や「豊かさ」について考察してゆくための準備的な学習を行います。ここでのポイントは，履修者自身の関心にひきつけて取り組む課題を選択し，それを追求してゆく作業です。
レポート課題 1	基本教材の第Ⅰ部「歴史の中のアフリカ」を通読した上，3つの章のうち1つを選んで論評する。 留意点： ・A4の用紙2枚程度におさまる分量とするが，様式は問わない。 ・レポート冒頭で当該章の内容を要約する。ただし，分量としては400字以内におさめること。
レポート課題 2	基本教材の第Ⅱ部もしくは第Ⅲ部のいずれかを通読して，各章のトピックを整理するとともに，開発課題（「平和」、「豊かさ」）との関連性を論述する。 留意点： ・トピックの整理，開発課題との関連性，それぞれをA4の用紙1枚のスペースにまとめること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 峯陽一，武内進一，笹岡雄一編 教材名： 『アフリカから学ぶ』（有斐閣 2010年）ISBN:978-4-64-104986-4 2,300円+税
	アフリカに関心を抱く人びとに学びの契機と材料を提供することを意図して編集された論集で、「歴史の中のアフリカ」、「平和なアフリカのために」、「豊かなアフリカのために」、「アフリカの21世紀—新しい関係をめざして」と題された4部，全15章で構成されているバランスのとれたアフリカ論です。
参考図書	石田洋子『アフリカに見捨てられる日本』（創成社，2008年）ISBN: 978-4-7944-5025-8 800円+税 平野克己『アフリカ問題：開発と援助の世界史』（日本評論社，2009年）ISBN: 978-4-535-55505-1 3,300円+税 吉田栄一編『アフリカ開発援助の新課題：アフリカ開発会議 TICADIVと北海道洞爺湖サミット』（アジア経済研究所，2008年）ISBN: 978-4-258-30010-5 1,500円+税
履修上のポイント	1993年以来、日本政府主導で開催してきたアフリカ開発会議（TICAD）に注目することで，アフリカ開発とその課題について理解を深めることを所期の目標とします。 20年以上に及んだプロセスを俯瞰して，日本政府のみならず，さまざまなステークホルダーの取り組みを時系列的に整理することが第一のポイントになります。 第二のポイントは，まさに動いている事態を自ら追いつつ，その時点での評価を行うことです。
レポート課題 1	基本教材の第Ⅳ部を通読した上，参考図書や関連文献を活用して，2013年の第5回アフリカ開発会議（TICAD V）に至る取り組みの変遷について整理し，論評する。 留意点： ・A4の用紙2枚程度におさまる分量とするが，様式は問わない。 ・とくにTICAD Vについては，まとまった文献が乏しいため，資料・情報収集に努めてほしい。
レポート課題 2	2016年にケニアで開催される第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）の主要アジェンダと，その成果について整理し，論評する。 留意点： ・ウェブサイトをはじめメディアからの資料・情報収集が不可欠です。 ・A4の用紙2枚程度におさまる分量とするが，様式は問わない。